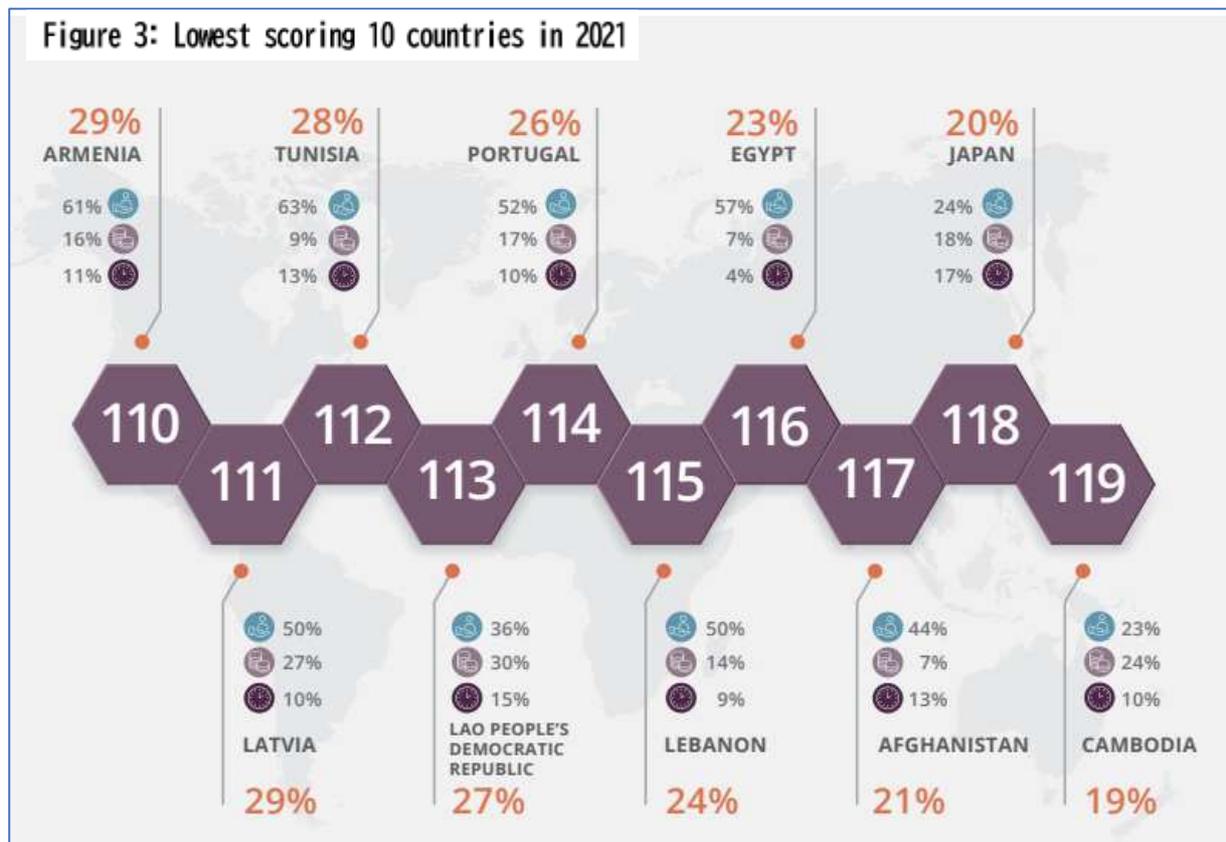


4. 解説：日本の寄付文化の実態

Charities Aid Foundation (イギリス) が発表している「World Giving Index2022」は、寄付行動を3つの側面でスコア化している。「過去1ヶ月の間に、①助けを必要としている人を助けたか？ ②慈善団体にお金を寄付しましたか？ ③ボランティア活動をしましたか？」。この結果を見ると、日本は118位と世界ワースト2位となっている。なんと、“日本人は寄付をしない/人に優しくない”。日本のスコアが非常に低い理由として、「文化的なものである可能性が高い。米国では慈善事業と認識されることが、日本では責任と理解される可能性が高い。」と指摘している。



出典：World Giving Index 2022 A global view of giving trends <https://tinyurl.com/2ewauoqg>

「なぜ日本人は寄付をしないのか」（関西大学法学部教授 坂本 治也）<https://nippon-donation.org/papers/594/> においても、寄付をしない理由として、同様のことを指摘している。

- ① 7割以上の日本人が寄付したお金がきちんと使われているのかに不安を感じている。
- ② 日本人の間では寄付を集める慈善団体に対する不信感も極めて高い。
- ③ 自己責任意識が強い人ほど寄付意識が弱い。

このような日本の寄付文化に対する認識構造を見ると、寄付を募集する団体を通じてではなく、クラウドファンディング（CF）のように当事者に直接寄付をする方法が適しているのかもしれない。インターネットを利用する寄付のマッチング・プラットフォームの方が、透明性があり、寄付による参加感も味わえる。場合によってはリターン（返礼品、優遇等）も期待できる。いま、科博のCFが7億円超えというCF史上最高額の寄付金を集めて話題になっているのはその象徴的事象かもしれない。直接税の「ふるさと納税」が1兆円に迫っているのも同様な背景かもしれない。